

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	医療法人社団駿甲会 グループホーム実夢静波 (1F、2F合同)		
所在地	牧之原市静波203番地の1		
自己評価作成日	平成23年5月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295800078&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295800078&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所 第三者評価チーム		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム実夢静波は昨年4月にオープンし、開設1年を迎えました。「実夢(みむ)」とは「三無(みむ)」すなわち3つの“むり”をなくすことで、一人ひとりの利用者の夢が広がるようなお手伝いをするという意味をしています。3つのムリとは「がんばらない」「がまんしない」「無理しない」、です。利用者の、これまでの過ごしてきた生活や人生の継続性を支援することを旨とし、パーソンセンタードケアをベースにケアサービスに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏には観光客で賑わう静波海岸からほど近い場所に事業所はある。開設から1年余りとなるが、職員の定着率も高く、アンケートによる家族の満足度も高い。廊下やキッチンには車椅子での行き来可能な広さが十分あり、照明や窓など細部にわたり吟味された造りとなっている。特に居室の常夜灯や機械浴の設置は、「快適に最期までここで」という想いが伝わるものである。また、情緒面の快適性についても配慮があり、各々の居室入口には法人事務長が自ら描いた花の絵が飾られ、また季節に応じて廊下や共用空間の絵画を掛け替えている。同法人には既にグループホームがあったが、一つひとつについて同職員で新たに話し合っ決めて決めるなど自主性を重んじているためか、ホールには職員と利用者の声が響き、明るい雰囲気には溢れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設に入所されている方だけでなく、『地域と共に喜びのある生活を送れる』を理念に掲げています。	開設時に職員全員で考え、一人ひとりの言葉を盛り込んで作成した理念があり、定例会議で都度確認し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日の散歩、買い物に出掛けています。地域のお祭りに積極的に参加しています。	利用者と職員で実夢ニュースを配布するなど地域へ出向くほか、地域の祭りに駐車場を開放し、また婦人部からは祭りの踊りを教えてもらうなど、地域との交流が双方向で進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて班長さんにも参加を頂いています。広報誌を町内会に回覧し情報の発信に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。行政、包括、ご家族、班長さんの参加を頂き、指導、助言を頂いています。	多方面からの参加があるため、情報が豊富に集まっている。また、おやつを試食をしてもらうなど、内容に工夫を凝らしている。今後はテーマをもって取り組むことを考えており、次回は「医療連携」について講師を招いて開催する予定でいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加を頂き、指導、助言を頂いています。	管理者は確かな知識、情報を得ることを旨とし、市へ頻回に問い合わせをしており、市からも丁寧な回答を得ている。また、介護相談員の受入もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。スタッフ会議では、言葉での身体拘束等の話し合い等も行っています。	ゼロ宣言をしている。身体拘束に該当する行為か、家族の意見も得て進めている。また、進める際には支援経過記録に記載している。	やむを得ず取り組む場合の書面の備えを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議での検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議で学ぶ機会を作ったり、また、ご家族への情報を行っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所退所時に、ご本人、ご家族と話し合いを行っています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会の開催で、ご家族から、意見や要望を頂き、都度、説明や検討を行っています。	家族会や運営推進会議の議事録は、参加できなかった家族も閲覧できるように事前に周知してある。満足度調査を目的にアンケートをとり運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議開催で、お互いの情報交換や気づきを話し合い、意見を反映させています。	毎月スタッフ会議を開催し、特段の理由がない限り全員参加している。あらかじめ各職員が考えをまとめ、また全職員が発言できるような雰囲気づくりにも努めている。	年間の個人目標を制作し、管理者が経過について個人面談をするなど、育成の仕組みをつくることを期待する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や経験が違うスタッフ、それぞれの良い所が発揮できるよう常にコミュニケーションをとれるよう努めています。また、定期的に法人本部へ現状の報告を行っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部との連携を常に行ったり、随時、適切な研修に積極的に参加しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人関連のグループホーム施設との交流を常に維持しています。また、グループホーム協会に加入し、他の施設の職員さんとの交流ができるよう努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に個人面談を行い、入所直後にも、本人の意向を聴ける機会を作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、入所時、入所直後に、ご家族との話し合いや要望が聴ける機会を作るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスが提供したり、また、他の介護サービスの情報も含めて、ご本人、ご家族と話し合いができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する。される。立場ではなく、18名プラス職員が家族のように過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時、コミュニケーションをとり、ご本人の状況説明等を行い、ご本人とご家族の信頼関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるよう努めています。	近所の人や家族以外の関係者の面会も受け入れている。独居の方の自宅チェックや墓参りなども職員が付き添っている。お習字や針仕事を続けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア毎ではなく、18名と職員が日常生活の中で交流できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困りがあったら、遠慮なく連絡をもらえるよう説明し、必要時には訪問も行っていきます。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で得られた情報を元に、その人らしく暮らせるようスタッフ会議、ケアプラン会議で検討しています。	利用者本位ということを第一とし、アセスメントシートには家族から聞いた情報を記入する欄を設けている。また、プラン更新時にアセスメントを取り直している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ケアマネさんからの情報提供などで、経過の把握をしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状態などについて、アセスメントを行い、ひとりひとりの現状の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含めご家族とケアプランについて話し合い行っています。	各ユニットの計画作成担当がプランとモニタリングを担当している。ケアプラン会議において全職員で話し合うことにより情報を共有化している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のスタッフ会議開催で、担当職員からの報告で職員間で共有し、話し合いを行っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人関連のグループホーム施設との交流を常に維持しています。その人のニーズに対応できるよう努めています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会にみえた近所の方などの情報からにも耳を傾け安心した暮らしができるよう努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期的な受診、ご家族の協力で受診などを行い、適切な医療が受けられるよう努めています。	自宅からのかかりつけ医であっても開業医の場合はすべて職員が付き添っている。医療連携をとっており、看護師の訪問が週1回ある。また、医療情報は個人ファイルに保管し、有事に備えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携ノートの作成で、介護⇄看護の情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人病院との連携を常に維持し、情報交換を行い、安心して治療に専念できるよう努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期についての意向を伺っています。地域の開業医や訪問看護と連携強化に努めています。	できること、できないことについて契約時に説明し、家族の合意を得ている。家族の意向があれば事業所では取り組む考えがあり、実績も1件ある。	準備として「死生観」などターミナルに係る研修に取り組むことを期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職オリエンテーション時に、応急処置等の勉強を行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、毎月、消火機器の点検を行っています。消防訓練には、地域の方の参加も頂いています。	訓練ならびに装置検査を年2回行っている。また、訓練には自治会長にも参加してもらっている。今週地域で行われる津波の避難訓練には職員とともに利用者も参加する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言をうまく利用し親しみの込めた言葉使いができるよう努めています。時に口調が厳しくなってしまうこともあります。	傾聴講座に参加した職員が増えており、利用者の想いを聴くことに拡がりが出てきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、ご本人の思いが引き出し記録に残すよう努めています。自己決定できるようご本人の意思を確認するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを、基本に、ひとりひとりのペースに合わせた業務になるよう努めています。時に(行事)業務の都合になってしまうこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院等へ行けるよう努めています。時にご家族の協力で外出されることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みに合わせることはできませんが、準備や食事作りはご本人ができることを一緒に行っています。	食事前にテレビを消し、音楽を流している。また、職員がメニューについて説明し、食欲を促している。好みの嗜好品については自費購入してもらい、メニューに添えるなど自由度も高い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に合わせ、量の調節を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、自分では難しい方には介助を行っています。必要時は協力歯科医院への受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄記録を行い、状況に応じてリハビリパンツ等を使用しています。	排泄のチェックはパターン把握とともに、健康状態の把握にも活用している。昼間は、テープ式の紙オムツは使用しないようにしており、適切な誘導により布オムツに改善向上した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、その人の嗜好品も購入しています。その人に合った形態で提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方のペースに合わせ、入浴を都度、行っています。また、その方の状態に合わせた入浴方法で安心して入浴できるよう努めています。	入浴の日は特に決めず、利用者の意向に応じている。マンツーマン対応で会話や歌を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間の規則はなく、その方のペースや状態に合わせて、安心して眠れるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を管理している場所で、都度、処方されている薬の説明書を置いており、誰でもわかるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、時には、ご家族にも協力をお願いし記入して頂いています。ご本人の希望や要望が出きる限り受け入れられるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべて希望に沿って外出することはできませんが、できるだけ、希望に沿えるよう努めています。広報誌の回覧の依頼時に近所へ一緒に行く、業務がてらの用事に一緒に行くなど天気の良い日は外出できるよう努めています。	開設から1年を経て、JAの朝市、スーパー、大型薬局、公園など立ち寄り先も増えている。また、隣接の畑で作業をしたり、テラスで日光浴をするなど、外気浴の機会も多い。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある時はもちろんですが、散歩時など職員と一緒にいき、自分の財布から支払いできるように、おこづかいをお預かりしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は対応しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、臭い、温度、光、など、全てに対して、刺激がなく安心して過ごせる空間作りに努めています。	温度は利用者に体感温度を確認し、エアコンなどで調整している。照明は照度を替えることができ、間接照明の代替ともなっている。また、匂いがこもらないように随時換気も心がけている。	温度計、湿度計の設置を期待する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	移動範囲を制限せず、好きな場所で過ごせるよう努めています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を持参して頂き使用しています。全体的に荷物が少ないように感じます。配置は、ご本人とご家族と話し合い、決めています。	エアコンとベッド、押し入れを兼ねたクローゼット、カーテンが備え付けられており、ゆったりとした空間となっている。出窓があることで写真や小物を飾ることができ、部屋が明るく感じられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかなくなってしまうよう、適切な位置に分かるような表示をしています。ベッドの位置なども、ご本人の状態に合わせて、希望を伺っています。			